
2年から2年

カツオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2年から2年

【著者名】

NO863A

【作者名】

カツオ

【あらすじ】

これはオレの自伝です。小学2年生から中学2年生までの自伝です

幼稚園から小学1年生

「どうも。

この小説はオレの小学2年から中学2年までの出来事を語る物語です。

では、オレが語ることができない幼稚園から小学1年生までの話をしよう。

幼稚園の時はなんかしらんがかわいかつたらしく、なんかもててたらしい。

それが原因か、オレがバカなせいなのか、先生はオレのことをおもいつきり嫌つてました。

なんか人がいないところで、

「死ね」

と言われました。ハハハ。

小学1年生の時はさすがに困りました。

ある日、学校の休み時間に校庭でフラフープで遊んでいたら隣の須長がフラフープが木に引っかかった。

オレが

「あーあ」

とか言つてたら須長が

「おまえのせいにしてやるよ」

つてなんかしようがない感じでいつてるんですよ。「ひどくないすか。

休み時間が終わつたらすぐフラフープの話です。

そしたら須長がオレのせいだつて言いました。

オレは反論して立ち上がつたら発見者の多数決。

須長がやつてているのを見た人はいない。

次に先生がオレを聞いたら見た人全員あげるんですよーいや、君、

見たよね。

オレは泣きながら

「あいつらも須長がやっているのを見た。オレはみてただけだ」

でも信じてもらえなくて、泣きながらクラスに謝りました。
あれから、いじめが始まりました。

でも、2ヶ月後、須長が泣きながら自分がやりました。
としました。みんなも先生も謝りました。

そんな波瀾万丈な人生を過ごしましたが、カツオの自伝始まります。

なんか人がいないところで、

「死ね」

と言われました。ハハハ。

小学1年生の時はさすがに困りました。

ある日、学校の休み時間に校庭でフラフープで遊んでいたら隣の須長がフラフープが木に引っかかった。

オレが

「あーあ」

とか言つてたら須長が
「おまえのせいにしてやるよ」

つてなんかしょうがない感じでいつてるんですよ。「ひざくない
すか。

休み時間が終わつたらすぐフラフープの話です。
そしたら須長がオレのせいだつて言いました。
オレは反論して立ち上がつたら発見者の多数決。
須長がやつてているのを見た人はいない。

次に先生がオレを聞いたら見た人全員あげるんですよ!いや、君、
見たよね。

オレは泣きながら

「あいつらも須長がやつてているのを見た。オレはみてただけだ」

でも信じてもらえ無くて、泣きながらクラスに謝りました。
あれから、いじめが始まりました。

でも、2ヶ月後、須長が泣きながら自分がやりました。
と言いました。みんなも先生も謝りました。

そんな波瀾万丈な人生を過ごしまくつたカツオの自伝始まりま
す。

アトリエ

オレは小学一年からアトリエに通つてて絵を上達するために頑張つてたんですよ。

まあこのアトリエって前に公園はあるし、近くに駄菓子屋があるし、土地的にいい場所だったと思う。

最初は火曜日に行つてたんだけど、女だらけでつまんなかった。火曜日来たとき、見知らぬやつがいるなと思ったら、クラスのやつだったので話しかけたんですよ。

「おう、おまえも行つてたのか」

友達は言つた。

「けつこうまえから来てたぜ。幼稚園から来てたな

「へえ」

「おまえも木曜日に来いよ」

「行けるのか」

「おう、オレも行つた」

「じゃあ、行くか」

といつわけでオレも木曜日に来る「ことになつた。

オレが木曜日にしてからは毎週が楽しかつた。話したり、ふざけたりして楽しかつた。

休み時間が特に楽しかつた。

公園でばかばかしてた。

小3になつた。オレと友達はクラスが別れてしまった。
友達のクラスの担任は見るからに話が短そつたが、オレの
担任はすごく話が長い長い。校長より長い長い。

おまけに意味なく時間にルーズ。

あつ、アトリエの開始時間は3時30分です。
これを言わなきや後から意味がわからんないから。

学校でおなじみの帰りの会を3時に始めたし、おまけにこんな
話をしやがつた。

「私ね、昨日の夢で大きなたこに襲われる夢見たんですよ」

いや、知らんよ。

あんたの昨日の夢なんか知らんよ。

いいよ。帰りの会で昨日の夢の話なんて、なんの得になるんだよ。
まつたく。

おい！早くしろ！

「足で叩かれそうになつたところを、赤ちゃんに助けてもらつたの
よ」

いいつて！赤ちゃんなんかいいつて！だから！早く終わらせろ
！おい、隣のクラスなんかもうさようならつて言つてたぞ！
「メロンパン初めて買つたんだけど、あれ旨いよね」

知らん！終わらせろ！オレはあと10分でアトリエなんだ！
「頑張つて！あと10分で終わるから」

いや、間に合いませんからー残念！

ああ！3時30分！

「それより、大切な話があるんですよ」

いやたこの前に言えよ！ああ！

オレはいつも走つてかえつている。

オレは母ちゃんが免許持つてないから迎えにいけないんだ。ああ。

雨の日なんか最悪なんだ。たまにこける。

そして、オレはいつも遅刻している。

後一つは絵の具のことなんだけど、絵の具ね、すぐなくなるの。
前なんかね、赤と青しかないの。

使える色は赤と青と紫と赤紫と青紫とグローブ色しか出来ない。

その時の課題は

「自然」

- 。緑なきや出来ないし。まじ困る。
- でもマンガが借りれるんです。
- なぜかサザエさんのレパートリーが多いんですよ。
- まあ、いろいろあつてオレはアトリエをやめた。
- 友達は超ショックな顔をしてた。

オレがやめても、あの先生は話は長かつたけどね。

人の話聞く力

オレは小1の時はものす「」べバカでね、もう土下座寸前までバカなんだよ。

だから先生の話なんか聞くはずもなく、図工なんかおもいつきり忘れたからね。

通信簿もね、

「頼むから話だけは聞いてください」と書いてありました。

それに親の話も聞いてなくて親の会話なんか「〇〇（本名は知られたくないの）ー今日のテストビデオだったの

「えつーー」

「テストー」

「（）めんーわかる」

「.....」

ただ単に聴覚が悪いだけなのかな。よくわからないけど、ハハハ。

給食の時も早く食つたり氣づいて食つたり、いろいろあるんですよ。

でも一番氣まずいのは友達と喋つてる時。なんか友達ははなした後笑つてるんだけど自分は何言つてるのか分からなくて、すごい困る。てか氣まずい。

あとオレ忘れっぽいんだよな。

前友達の携帯番号を教えて貰つてそのままアドレス帳に登録し

なくつて何回も電話が来たんだけど誰か分かんなくて思わず着信拒否してたらまだ何回も来て、頭に来てオレはメールで

「おまえ誰だ」

つて送つたら返事が

「死ね」

つて来てその後変なサイトの勧誘メールが来て、アクセスしてしまい自動登録されました。

その後ああ！あいつだあ！とか思いました。
まあいろいろありますね。

一番最悪だったのが、小2だった時、なんかあじさいを育てるとか言わせて育ててたら、なんかうざい葉っぱが出てきて先生が大きいのを残して取れって言つたんだけど、俺、小さいの残したの。もちろん聞いてないから。

その後、オレは先生のビンタ後、ベランダ行きになりました。オレの小学校は廊下じゃなくてベランダがあるの。

なんか話を聞かないからバカが流した噂を信じてする休みをしつくるとかなんたら。

あんた、話を聞かないと関係ないと。あんた、話を聞かないと関係ないと。

てかそんな噂されてる本人の話もきけよ。なんだよあいつ。
んでオレまじボロ泣きで、もう嗚咽で何にも聞こえなくて、何回も叩かれて何力所か癌ができました。

脳裏に残ります。

そのときから人の話はちゃんと聞こえうけど難しいよね。
やつぱり。てかあの先生怖い。

5 (前書き)

誰から分かりませんが、この小説を楽しく読んでくれてる人がいてとてもうれしかったです。ありがとうございました。続きを読みたいと書いてありましたので更新しました。

幼稚園からのダチでS って言う奴がいるんだけど、そいつが笑える。

なんか知らんけど顔、イケメンでめちゃもててた。
なんかラブレターを見せてもらつたら、
「もうかつこよくてどうにかしちゃいそうです」
とか書いてありました。しかも告白を断る理由が
「俺には、サッカーがある。だから『じめん』」

いや、やつてないでしょ。

しかも、悪です。S。

学校の授業中にガム噛んでました。

キセルもやつてます。はい。45回ばれます。
彼、校則を破るのが大好きです。

それのせいで3時間ぐらい授業が遅れました。
オレもけつこうグルを組んでたので、給食を食つ時間まで
も叱られていきました。

その中でも特に笑えたのがオトリ万引き。
まず、けつこう万引きの被害が多い店に行く。
万引きGメンがいるか確認する。

万引きGメンの前にある商品の前で拳動不審にする。
商品を袋の中に入れる。

Gメンがついてくるのを確認。
レジの前を通り。

商品を出す。Gメンがつかり。それをみるのが笑えました。だせえ。

52回事務室行きました。

S、泣いてました。自分がオトリをしてたのに。

それに心を打たれた万引きGメン。俺たちを返しました。

でもその中でも一番怖かつた事があります。

ある日コンビニで買つてきた物をコンビニ近くの公園で食おつ

としたら、不良がたくさんいました。

それをSはなんかの祭りの集まりだと思つてそのまま食つてました。オレもそうです。

それにしても祭りの団体が不良座りをしてるなんてと思つてペットボトルを投げたら当たつて一人で笑つてたらなんか怒声が出てきました。

Sはその怒声と共に鳴しながら笑つてたらこっちに来ました。

不良、すげー速い。俺たちは怖くなつて自転車に乗りました。

「あれ、不良なのかよ！－すげービビつた！－」

Sが言つたのでオレも共感してうなずいてたら、とんでもなくうるさい騒音が聞こえました。

オレたちが後ろを向いたら、変な形のハーレーを乗り回しながらオレたちを追いかけてました。

オレたちはまじめに泣きながら自転車をこいでハーレーから逃げきりました。

翌日、普通に自転車に乗つてたら簡単にチヨーンが外れてました。

それだけこいでたのですね。うん。

あれからオレとSはハーレーを見る度にビビつたのは言つまでもない。

小3ほじからオレは姉ちゃんに「じめられました。」
だからです。

オレは嘆きました。

姉ちゃんもデブだからなんか自分にむかついてオレをデブにしていじめてるんです。むかつきませんか？

小4の時、姉ちゃんが世話をちゃんとするとかと言ってハムスターを貰つてきました。

その後、モナコへ
が世話をしました。

「姉ちゃん！！たまにはハムスターの世話をしろよ！！」

二 た顔をして

やうやくわざで5回目の二歳の誕生日を过了。

あれからオレはずつとハムスターの世話をしました。

しかもオレがいなきや死ぬのに、ハムスター、オレを噛みます。

オレには姉ちゃんのほかに弟がいますが、姉ちゃん、弟はめち

やぬひや 可愛がります。トブじやないか!。

姉ちゃんが寝坊して友達が怒つて縁を切つた

起こせとたのまれたのは弟なのに一方的にオレに黙つてオレが起こすことになったそうです。

やんがそれを聞いて、なぜかやせた。

オレをボコすために用意した自家製鉄パイプでオレを50発ぐらいい殴つたあと、家にある漬け物石でせんざん殴り、あげくのはて

にポットにある全ての熱湯をオレにかけました。

オレが痛くて熱くてもがいてたら、姉ちゃんが蹴りながらオレ

を玄関まで運んでオレを追い出した。

その後泣きながら友達の家に行つて、友達の母ちゃんが警察に電話しよつとしたがオレは拒んだ。

やつと痛みも収まつて帰つたら、遅いと叩かれたあげく、夕飯

をオレの皿の前でおいしそうに姉ちゃんが食いながら、

「さすがデブ、やつぱり体が太い」

とか言つてました。

オレはめちゃくちゃキレた。

姉ちゃんの自家製鉄パイプを持ち出して部屋中の物を全て壊した。お姉ちゃんに3発ぐらい叩いた。

てかコメディなのに、こんな話してゴメンね。

てかそんな姉ちゃんいたら誰だつてこんな事するから。

次は弟の話をしようか。

はつきり言います。オレの弟、ホモになります。はい読んだ人、引いてます。うん、オレも引くから。

弟がホモになりかけた理由、それはコナンです。

コナンってさ、なんか倉木麻衣が歌うんですよ。

エンディング。オープニングは愛内里菜。

ところがコナン。

エンディングのアニメ見てる限り、蘭とコナンが恋してるみたい。

新一は何処行つたの。

話すれました。

問題は倉木麻衣の歌の最後のフレーズ。

「抱きしめて〜」

「抱きしめてあげるよ」

と弟が言つて、いきなり皿の前にいたオレを抱きしめた。

ひよんないことから弟が命名した抱きしめ少年誕生。

説明しよつ。

抱きしめ少年とはそこらへんに歩いている人をただ抱きしめて、窒息死させる能力を持つ、人間形態に変形可能なゲイ妖怪なのだ。

実際の抱きしめ少年は腕が8本あるらしいと弟が言つていました。

しかも抱きしめられるのオレのみ。抱きしめ少年は勇気がないのです。

ある日、エスカレートしました。

抱きしめ少年が進化して腹舐め少年誕生！！

説明しよう。

腹舐め少年は抱きしめ少年の能力 + 腹を舐めて人を嫌な気分にさせる + 腹を吸つて全ての栄養分を吸い取る + 人間形態に変形可能なとてつもない妖怪なのだ。

被害者、オレ一人。

腹舐め少年は進化しても勇気が無いとです。

弟はどんどん進化します。

オレが本を読んだと、

「本じゃなくて僕の顔を見て！！」

と顔で割り込み。

挙げ句の果てに腹舐め株式会社、デブの街、完成。

説明しよう。

腹舐め株式会社は仕事、腹を舐めて人を殺す事を目的としている株式会社です。

絶対誰も株を買わないと想います。犯罪だし。

社長は被害者なのにオレです。社員は弟のみ。募集はありません。

腹舐め株式会社、倒産寸前です。

説明しよう。

デブの街とは、腹舐め少年から逃れてるデブの人のために作られた街です。

中は毎日風船が飛んでて、ほとんどが食事をするところ。デブは無

料。

警備員もデブです。

そんなデブの街は腹舐め少年の最高の餌食りしくて毎日デブの格好して来ます。

おなか舐め舐め株式会社は、腹舐め少年も入っていて、腹を舐めたら金がもらえます。

どうですか？オレの兄弟変でしょ？あと兄ちゃんは保父さんを目指して勉強してます。

絶対後書き見てね

my brother (後書き)

キモがらないでね。

ドラクエの天空の花嫁が発売された時、オレはケータイで予約してたら予約件数がいっぱいですと表示されました。

オレ、それが出てきたとき真面目に慌ててもう買えないって思つたら、親戚が買つてきました。

それと同じタイミングで予約も成功して来週には届きますつてメール来了。2個もりません。

結局、もはつた直後未開封で売りました。

230円が無駄になりました。

さつそくソフトをセットしてスタート。名前を自分の本名にしてプレイ。

天空の花嫁つて一番特徴があるよね。最初が主人公が生まれるのがいいね。

しかもめちゃくちゃ強い主人公の父ちゃんが名前がトンズラがおすすめとか言つてました。

おい！-!トンズラつて、トンズラつて-?妙だけど一番アホそな名前だつたな。うん。

その後船に乗つて船長に話して、父ちゃんに話して降りたら、なんか父ちゃん、知らないおつちゃんと話してるやんけ。

まあとりあえず主人公になりきつたオレはフィールドに行つたら父ちゃんいるじゃん！！

父ちゃん、簡単な世間話で終わるんかよ。

てか父ちゃん、最初からレベル22！-?強いやんけ。

スライムがすぐ死ぬからすぐ育つなつて思つたら、あいつら自動で歩いてました。

しかも速い。結局レベル2までしか育ちませんでした。

その後、一晩寝て起きたら父ちゃん、走つて洞窟に行つちやいました。集団自殺しに行つたのかな？

まあとりあえず行かなきゃ 何も始まんないからとりあえず行こうとしたけどだるいから本を一冊読んでもた寝ました。

んで起きたらまた父ちゃんがいたのにキレて、売りました。

その後発売したのが空と大地と呪われし姫君。行列で並びました。

最初からヤンガスが仲間になつてゐるから戦いやすい。やつぱり自分で歩くのがいいですね。

でも主人公が喋んないのはやつぱり同じですね。

ヤンガス、強いね。同じレベルなのにあんなに斧が似合つてて強い奴初めてですね。

最初からいきなりスライムが出てきました。

でも、剣をえいって振つたらすぐ死にました。ヤンガスはおもいつきり振りました。

その後、小さい変な町に着いたらトロデーとかいうHirajiki奴が怪物扱いされたあげく石を投げられ追い出されました。

緊迫した場面なのに笑つたのはオレだけでしょうか。

やべーよ！－追い出されました。どうしましょ。はい。

変な娘登場。なんかひけひけやあつて水晶取りに行かされました。

なんか取んなきや 親父さんがやべーそうです。

あの、町を追い出されたオレらもやべーんです。自分で取りに行つてください。

その後じちゅじちゅあつてゼシカとか言つ女とキザなククールとか言つ男を仲間にしちゃいました。

その後じちゅじちゅあつてトロデーン城に着きました。

そのトロデーン城がキモいキモい。いばらが巻き付いてます。

「速く図書館に行け」

とか言われちゃいました。

おい怪物。行けとかじやなくて場所を教えてくれなきや オレらも歩けません。

でもなんとか到着。

訳分からん本を読んでたらキモい扉が登場。ハープを取りに行かされました。

水晶取りに行つたりハープ取りに行つたり大変だな。
主人公も。でも何も喋んないのがさすが主人公。

そしてごちゃごちゃあつてハープはだけーもぐらと戦わなきや
もらえないことになりました。

そのだけーもぐら歌を歌います。それがどうしたと思って口笛
吹いてたら

「エイトは歌にしびれて麻痺になつた」

はあ！？口笛が一気に高くなりました。

しかもだけーもぐら、パンチが強いです。でも何とか勝ちました。

ごちゃごちゃあつてついにドルマグスへ。

訳分からん攻撃ばっかしてくる。めちゃくちゃ強いし。でもオ
レは、

「負けてたまるか　　！」

つて叫んでたら親にうるさいつて言われたけどギガスラッシュ
で倒しました。

エンドロールをしみじみ聞いて、セーブして切つてまた付けた
ら、あれ？と思いました。

主人公のレベルが8、ヤンガスが93、ゼシカが13、クク
ルが5でした。

オレはもう頭の中ごちゃごちゃして、スクエア・エニックスに
電話したら、ソフト、ゲーム機器内の異物の侵入による故障。でし
た。

オレは電話しながら泣いてました。

人々はオレをゲーム悪魔と言わされて2度とゲームセンに誘われること
はありませんでした。

タメじゃん!!

はい、前書きで書いた通り怖い話をします。

オレ、自分で靈能力はないと思つんだけど、靈体験が多いんだ。たとえば5歳の時に、おもいつきり肘を強打して骨折して入院したとき、入院してた病院はでかいけど古かつたんです。

ある日、疲れなくて散歩していたら、同じぐらいの女の子が二つちに歩いてきました。

オレは新たな恋を希望して歩いていたら、その女の子、顔はかわいいんだけど、左腕は無いし、やや透けてるんです。

オレは何もしなきや追われないと思つてすれ違つたら、

「いいなあ、私、あなたの左腕ほしいなあ」

オレはえつ？と思つたけど逃げました。

小3の時に学校に忘れ物をして夜中に学校に潜入、職員室にあるテストの答案をパクろうかなと思って、職員室に潜入したら、白い人がいっぱいいました。

またまた小3の時に授業中外を見たら、窓に手が張り付いてました。

オレ、何が何だかわからなくてずつと見てたら、その手、窓をはい上つてました。

それでもずつと見てたら顔が見えました。目が半分ぐちゃぐちゃになつてて、頭からばだらだら血を流してました。

「んぎやああああああああ！」

音楽で子守歌を聞いてた時に叫んだんで注目率はおもいつきりあがりました。

小4の時は何もなかつたな。うん。

小5の時はオレはめちゃ悪で夜遊びしていた時に、みました。その友達もみました。

警察官の幽霊です。

オレらを見つけたとたん、消えました。その後、泣きながら逃げました。

次は中2の時の話です。

中2では2回体験しました。

1回目、オレの友達にKと言う奴がいました。

そのKは、とにかく道に詳しい昆虫博士という微妙な特徴があります。

ちなみにKに教えてもらったのですが、スズメバチは人間の髪が敵の蜘蛛に見えるそうです。

あと、止まつても叩いたり、払つたりしないで下さい。

とりあえず何もしなければ刺しません。

あと、スズメバチに刺されたら3時間で死にます。タメになりますか？

話を戻します。

そのKの家に遊びに行つた時、Kがいきなり自転車で熊谷に行こうと言されました。

オレは秩父出身で、その秩父から熊谷まで自転車で行くんです。すごい長い距離です。しかも高速道路は平気なのでしょうか？

とりあえず行きました。

裏道、裏道をずっと通つてました。

そして、なんか知らんけど山を登りました。しかもその山がキツいキツい。

自転車もキツくてチーン外れました。

その後、怖そうな兄ちゃんに直してもらいました。

自転車も直つて行つたらなんとか着きました。一人でやつたーとか言ってサテイとか寄りました。

その後、山を降りました。

降りてる最中に樹海と樹海が挟んだ道を通りました。日なたがなくていかにも怖そうです。

「アーリー、布袋だな」

と言つてたら、いきなりKが止まりました。

「どうした」

一
あれ

Kが指を震えながら樹海を刺しました。

アレがそこを見ると、首を吊してゐる女がいました。

二十九

じぬにじれあがした。

牛は牛に

三編目

バソーグ田ソリソ立ヌの歴二ハ

てが、チャリならそのぐらいだと思つた。」

俺たちは後ろを見ずにこいでした。

よくあるじゃないですか。

近づいたから、安心して後ろを向いた。やがて近づいたから、安心して後ろを向いた。やがて近づいたから、安心して後ろを向いた。やがて近づいたから、安心して後ろを向いた。

俺はとにかく靈はチャリがないし（当たり前）、進いつかない

とおもってました

じはぐく逃げてたら止まつた

一思ひ方を失はず間に上ま
二二は神土三つ一の瓜の象徴らつ二ハ一の瓜の

そこの坊さんが俺たちを止めたのだ。

「まあ中に入れ」

と坊さんか言ったので、俺たちは入った。

その社群の中はとても神秘的なオーラに包まれていた

絶縁はできである食りや掛け軸は心を奪われていた

んで話でも聞いてくれ

坊さんはそういうて俺たちを座らせて、話をし始めた。

「はつきり言おつ。あなた達は靈に追われていた」

「ドンピシャです。ぴったんこカンカンです。

「その靈は恋愛関係で自殺した女の靈でな、女つて言つても14だ
けどな」

「はい！？タメですか！？昔はすごいものです。

その後も坊さんは長い話をして、訳わからん棒で俺たちを叩
いて帰しました。

「コメディなのにこんな話こじめんね。

どもカツオです。遂に中学3年生になりました。受験生です。そろそろ修学旅行も近くなつてきました。修学旅行は奈良と京都です。奈良の鹿に鹿せんべいをあげてきますので感想はまたのせます。最近、メルマガの宝くじにはまりました。無料で現金が手に入るんですよ。普通の宝くじ売場で2、300円も払つて買うよりはマシだと思いますね。ダブル定額にも入つてますからパケ代も気にしないで楽しめます。みんなもどうですか。さて小説についてなんですが、中学生の特権の一つの部活についての話です。ではカツオでした。小説を楽しんでください。

中学生になつてからの一いつの問題は部活ですね。 そだよな。
俺も悩みました。 どこに入ろうかなつて。

俺の中学校、マジ面白いの。

科学部あるじやないですか。

科学部つていえ、変な薬品と変な薬品を組み合わせてなんかなつて
へえつて感じなんだけど、うちはね、パソコンやり放題。もうパソ
コン部だよな。 完璧に。

俺の家、パソコン無いから科学部もいいかなつて思つたけど、
仮入部の時にとてつもなく暗いイメージなので辞退しました。

さあ、残りはサッカー、野球、テニス、卓球です。

俺が小6だつた時に流行してたのが“テニスの王子様”という
アニメ番組で美少年のテニスプレーヤーがテニスをしてまだまだだ
ねとか言つアニメ番組です。

最後はテニス部の部長と戦つてアメリカのウインブルトンに行きました
したけどね。

そのアニメ番組を見た男子諸君がテニスがこんなに面白い物な
のかつて感じでテニスが流行りはじめてね。

俺もその流行にのりてえつて感じで買いました。

だからテニス部だつて感じで入つたら、テニスラケットは一年間
触らせない。

毎日タオルで素振り。

毎日校舎周り5周、歩いたらやり直し。

これがいきなり仮入部できまして、やつてられつかつて叫んでやめ
ました。

テニスの仮入部中、卓球部もじつた返しでした。

俺はすげーな、卓球つて思つてたら、

「まさか、その中に卓球部に入る奴いねーよな?」

つて一年生全員にらみました。もつせんぱーいって感じですね。でつていう。

続いて、サッカー。見たらイケメン君ばっか。入るひつとした自分に、

「一時間ぐらい鏡見とけ！…自意識野郎！…」
つて説得しました。

でつていう。

野球も休日は練習が多くそうなのでなんか嫌や。でつていう。

残ったのは卓球。卓球にしましたあ！！

早速千円ぐらいのラケットを買って、練習。
最初はどこでも基本練習ですよね。一、一いつて言いながら素振りしました。

休日も休まずやりました。

が、全然強くなんないすよ。なぜでしじうね。それでも必死に練習しました。

ある日、卓球部は体育館で女子と男子の範囲を仕切つてやってるんです。

そこに女子のボールが来て、俺の足下にぶつかりました。

俺はそれを拾つたら、俺の一つ上の先輩が取りに来たんです。俺は渡そうとしたら、その人、俺の顔をみてポ～っとしてゐるんです。その後、なんか知らんけど帰りました。

翌日、結構仲が良い先輩と会つて話していたら、

「〇〇君の事が好きな人がいるんよ」
いきなり先輩は言つてきました。

「えつ、相手は誰ですか？」

俺は焦つて問うと、

「〇〇」

と先輩は一番ショートな返答をしました。

俺は年上を惚れさせるなんてすげーなつて思いながら、下校途

中に思い当たる事を考えてました。そして俺は思い当りました。

卓球の玉を取つた時だ。でも男の趣味が悪いなと思つた。

翌日からすゞしく変わつた。

女子の範囲から視線を感じる。ずっと。なんか気味悪くて練習に集中できなかつた。

それがしばらく続いた後、女子の範囲から俺を呼ぶ声が聞こえる。

うるさい。練習に集中できない部員のみなさんの視線も怖い。俺はそれを逃れるため、倉庫でサボつた。入つた時、マンガを読んでる先輩がいたので、その人のマンガを読んでサボつた。

ついついそのマンガに夢中になつて随分時間がたつてしまい、戻ろうとしたら、後ろから聞きなれた声が。

「えつ、本当にここの〇〇君がいるの？」

「あつたり前さ～。入つてゐるの見たし」

「うわあ、眞面目にはなすの初めてだよお^__^」

「大丈夫!! 私は実は恋愛のキュー・ピッ・ドだから」

「マジ頼みますよお」

「うわあ、引く!! 引きすぐる!! 何じゅうの対話は恋愛のキュー・ピッ・ドって何ですか!!？」

「でもヤバくないか?!! うん……やっぱいですね。あんな奴らと対話なんかしたくない。」

「先輩!! 部長がキれます!! 行きましょう」

と先輩の鞄にONE PIECEのマンガを押し込んで、出ようとしたらもう田の前にいました。

すゞいいづらい。てか先輩いるし、何も話さないだろ。先輩と鞄は跡形もなく消えました。

せんぱあああい!!

うわあ、俺、生きてて初めて年上に裏切られちゃいました。はは、笑いも止まらないや。

「こんにちは」

とりあえず俺が言つたら、2人も返してきた。

「この子も○○って言つんだよ」

「はい！ 同じ名字ですね。フフフ、それがどうしたの？」

「ちょっとやめてよお！ 」

その俺と同じ名字の奴と出っ歯が特徴の二人はキヤー キヤー言つてました。俺はその場から逃げました。

地上に出たらまた俺を呼ぶ声、挙げ句の果てに

「もてるなあ」

と友達に言わされました。

すげー最悪な気分になつて頭を抱えてそのまま座り込みました。あつちからはどうしたのという声、看病しなと言われてあいつがやめてよおとか言つてはしゃぐ声。もう全て消えてしまふと感じました。

ははは、そんな時にはいざ出陣。嘘泣きだ。

俺はとりあえず感動したドラマを思い出したら涙登場。

そのまま副部長を呼びました。副部長は俺に向かって、

「どうした、いじめられたなら気にするな。他の悩みも相談するよ

「うわあ、俺、生まれて初めて俺と同じ学校にいる人が神に見えてきたよ。

とりあえず俺はいました。

女子卓球部がうるさくて練習ができない。

なんか俺をからかう。すごく恥ずかしい。まるで拷問みたい。もう、

部活をやめたい。

部活をやめたいと言つたら、副部長が地上から出てきて、俺が部活をやめそうだといって全員地下に降りてきました。はあ、みんななんていい奴なんだろう。

副部長が部長に今俺が話した事全てを言つたら、部長が地上に出てきて女子に怒鳴りつけて女子の部長と副部長、問題の二人がきました。

部長が女子の部長に今俺が話した事全てを言つたら、女子の部

長が俺の所に来た。

「練習が出来なかつたの？」

「（泣いている）はい。すぐ練習のじやまでした」

「迷惑？」

「はい」

すると、女子の部長と問題の一人が女子の顧問の先生に今までの状況を話して顧問の先生も登場しました。狭いです。

何を話したか忘れたけど顧問の先生がまとめてみんな安心して部活に戻りました。

その後、俺は職員室に行って、問題の一人を土下座させて帰りました。

その後、俺は体育館の時は部室で友達と練習してました。

部活内には必ず一番強い人と一番弱い人がいる。

卓球部もそうだ。

俺は一年の時はとにかくとにかく弱くてしうがなかつたぐらいで完璧に部活内では一番弱かつたですね。

卓球部は弱肉強食の世界。

弱い者は台では打てない。俺もいつも打てない状態でした。

おまけに強い人たちにいじめに合いました。

みんなが打つてる中、俺は筋トレをさせられ、ラケットを没収され、どんなに覚えのいい人でも覚えられないような教え方をされ、出来なかつたらやる気がないと言われ、ラケットで叩かれながら筋トレする毎日だった。

そんな時に限つて顧問は卓球は未経験で何もできなく部活にも来ませんでした。

だから強い人たちも調子に乗つてやめるコールをしてきたり、もうラケットはいらないと言われ、折られそうになりました。

休日の部活の時、神様はなぜか強い人のグループと俺だけにさせました。

もちろんヘボコール。

やめるホール。

帰ろうとしたらやる気ねえんかよと言われました。
訳わかんねえよ。

はあ！？やめるって言つてるんだから俺が帰つたら普通は喜ぶだろ。
もし俺がめちゃくちゃ強くなつたりどつなるんだ！？俺はそう考え
一生懸命練習しました。

そして、俺は部活で強い方へと導いていったのだつた。
今じゃ俺しか出来ないサーブがいくつも完成して、強い方の人たた
は悔しがつてました。

ついに一年生が入つてきました。

俺は調子に乗つてえらそうに教えてました。

強い人たちみたいな教え方で。

そしたら、俺より強くなりました。

中には超強い人もいます。俺のサーブも簡単にとられました。

俺はやつと自業自得の意味を知りました。

小説家になろう

俺がじつじつ風に小説を書こうと思つたのは、小学五年の時だ。

小説を書こうと思つた前は漫画家になろうと思つていたが、きもい奴も漫画家をめざしていたため、うわあ、俺はあいつと同じ道を進もうとしたのかと思い、やめた。

それならば、小説だ。

小説家になろうと思つた。

なぜなら漫画家よりも小説家の方が下積み時代を過ごさなくともいいし、漫画のように余計な道具をそろえなくてもいいからだ。

さっそく、シャーペンと5ミリ方眼の升田ノートを用意して小説を作つた。

最初に作った小説はこのサイトにも載せている地獄住宅だ。地獄住宅のストーリーは新しいマンションに引っ越ししてきた人や住人が悪霊の仕業によつて殺される話だ。

もう呪怨のパクリだけどまあいつかーとお気楽気分だ。

だつてそれなりには怖くしているが、評価してくれないのが悩みだ。ははは。

ちなみにこの地獄住宅、シリーズ化してるのだ。

順番で示すと、新しきマンションの真実、地獄へと進化したクリスマスパーティー、残虐な花子さん、ゾンビ屋敷への変化、地獄の壊滅です。

なんかもうどりあえず怖そつな名前にして完成度は〇に近いのだ。はいキャララーンな性格なんだ俺つて。

しかもすべての小説が完結していない。書いてもない小説もあつたりする。

でもそんな俺の小説の中で唯一完結した物がある。それは

「自殺前相談所」

。これは、不動産屋が夜になると自殺しようか悩んでいる人を相談

している（無料）。

どうして不動産屋のかはとりあえずそつ決めたから。特に引っかけは無い。

完成した日に俺の小説を楽しみにしていたおじさんに小説を見せたら、

「つまらん

と言われて返された。俺はそのとき、じょぼことつ葉を知つた。

あれから、俺は小説を書くのをやめた。

特にこれで金が欲しいなんて一度も思つてないし、別に俺には漫画家つてのもあるしねー。

なんて思つていたとき、最小年芥川賞受賞者が出てきた。
そのニュースを見たとき、なんですよー?と思つた。

そして、負けられねえと思つてまた俺は原稿用紙を机の上に置いていた。

だが、俺はとてもない事に気づいた。

どこに小説を投稿すればいいのかと。

とりあえず出版社のホームページを見たが、どこにも投稿してくださいなんて書いてない。俺は焦つた。

持ち込みも考えたが、東京だし、どこにあるのか分からなかつた。

そんな時に見つけたのがこのサイトだ。

小説も投稿できるし、読者の声も分かる。

おまけに不定期で出版のコンクールや、読者数も分かる。

そんなサイトどこにあるんだい!! (きもい) そうだよ!! 小説家になろうしかないじゃないか!!

そうして、俺は小説家になろうに小説を投稿した。

作者名はカツオ。直感で決めました(・・)

最初に書いたのはきっかけ。

ホームレスと少年の物語。

途中からなんでこんな小説書いたのだろう。と思つてやめた。でも

未だに投稿してる。

次に書いたのが友といつシンプルな小説。

でも話は意味不。

全然つまらない。

小説評価でも、私には意味が分からないと言われてまあちょびしょんぱり。

次は地獄住宅。

次はこの小説だ。なんか一番読者数が多い小説です。ははは。続いてグッドフレンド。俺が感動を目的とする小説。でもキャラに個性がない。

あとの小説は中3に書いたから分からぬ。以上！！

小説家になろう（後書き）

ちなみにこの後に書いた小説は資格～俊樹とハブ～、生きてました、
土産土、お魚くわえたドラ猫です。

僕の友達に「**セバス**」という友達がいます。その友達のあだ名はセバス
というあだ名です。

このあだ名は小4の時に関
がふざけながら

「俺の事セバスって呼んでくれ」

と言ったから呼んでヤバいじゃねえかって事になつて呼ぶ事になりました。

関。超面白いです。すぐ面白い人に影響されます。今はレイザーラモン住谷に影響されてフォートかたまに言っています。あとオザースとか。

きません。

そんな関連で、が起こした事件を紹介したいと思います。

が中学一年の時、給食で余ったもの（ドレッシングなどの袋系）を入れてシャツフルしたものを作つてました。時にはハ工の死体も入れました。

それを嗅ぐとなんかヤバくなります。

「コロンバスがアメリカを発見したのはそのときです！！」

数学の時間に俺が差されて、答えたのがこれで、休み時間に職員室で、二つ表されました。

ちなみにその臭いが説明できませんでした。

じょうか。

学校で大掃除があった時、関 がじやまだつたあれをどかそうとしたそのとき、なぜか関 はキャップを外してはこんだため、落としてしまいこぼれちゃいました。

みんな大騒ぎ。一部は教室から逃げるぐらいでした。

その声のことを音声だけで再現しようとします。

「うわあ！！何してんだよセバス！！（クラスメート）」

「やべえ！！ははは！！どうじょう（関）」

「うわあ、俺嗅いだの一度田だよ！！（俺）」

「おー！－〇〇が倒れてるぞ（先生）」

「先生、俺どうじょう（関）」

「いいから拭けよ（俺）」

「見て、拭いたらキレイになった（関）」

「しらねえよ！！（クラス全員）」

「とりあえず関 だけが掃除をして3人は保健室に行きました。

次の事件は関 は野球部のキャプテンで、必死に練習した時の事件です。

俺ががんばってるからジユースでもおじつでやろうかと思つて、ジユースを買って届けたのです。

「セバス、ジユース買って来たぞ！！」

「マジっすかサンキュー。これ終わったら飲むからさ」

そうして関 は素振りをしてた。その時、俺は異変を感じた。バットを持つ所に巻いてあるテープニングみたいな物があるじゃないですか。普通は白いのに、赤いのです。

「セバス、赤くなってるぞ」

「えっ」

そう言つて、バットから手を離した時、ブシューーーー！つて感じで親指から血が吹き出ていました。俺と関 は困りました。

「とりあえず、救急車だ！！」

その後、関 は救急車に運ばれて病院めちゃでかいに行つた。

ついでに理由は日々の練習で出来た血豆あぶらがつぶれてしまつたためだつた。

続いての事件は、関 と俺で自転車通学で帰つてる時だ。

そういうえば自転車通学には必要なヘルメット、あれはダサイです。無しにしてほしいです。

それで帰つてる時です。

俺たちが通つてる道路に、ビニールテープで囲つた畠がある。

そこには長ネギ、キャベツ、白菜が収穫されている。

そんな畠がある道路を関 と通つてたら、いきなりブレーキが効かないのか、ジグザグに通つた後、畠にそのまま突っ込んで、ビニールテープを突き破り、一回転して頭から落ちた。

「セバス！！平気か！？」（笑いをこらえている）

すると、関 は普通に頭を抜き、笑いながらヘルメットの土をはらつてました。

「ははは、おもしれえ、○○ちゃんもやれば

「いややんなこよ」

すると、その畠の主のおっちゃんが登場してきた。
怒られると思った俺たちはそこでとてつもない体験をすることが

…。

「おまえら、釣りには興味あるか

え

！？畠はいいの！？キャベツがボロボロですか

…！

「主を釣つた時の気持ちはもう最高ですよね

「そりやもう（焦り）」

関 、おっちゃんの機嫌を損ねないために頑張つてゐるな。
そりや父ちゃんが釣りが好きだから分かるけど。

関 の笑顔には2つの意味があります。

一つは、なんで畠を壊されたのに、笑顔で釣りの話をしているのか。

そして、もう一つは、さつと消えてくれ、このへそじじいって感じの笑顔。

案の定、おっちゃんは笑顔で家に帰つていった。その後、俺と関 は普通に家に帰つた。

俺の誕生日（前書き）

俺の誕生日なんてアニメの声を有名人が担当するぐらいだらぬ事だ

俺の誕生日

俺の周りの人々なんて、俺の誕生日はどつかの知らないパン屋のメロンパンが百万個売れたと同じぐらいのくだらない事件に等しいと俺は思う。

8月8日、この日は俺の誕生日である。

幼稚園から小学校低学年まではパーティーなど開いちゃって親戚を呼んでほれ金やる、ほれ金やると千円札をどんどん受け取った記憶があるが、これもいい思い出だと思えばいいだろう。

それから俺の誕生日を誰からも気づいてもらえなくなつたのは、そんなに時間は経たなかつた。

小学校高学年、そのころの俺は反抗期だつたのだ。
親に対しても『だまれ』と言つていた自分に誰がハッピーバースデイと言つうのだろうか。

そんな時、悲しい事件が発生した。

まさか、俺の誕生日にあんな事が起つてしまつたとは。
中学2年の8月8日、その時の俺は金が無くて、毎年誕生日にもらえる祖母の金が嬉しかつた。

俺はさつそくばあちゃんちへ。

ばあちゃんは一人座つておもいつきりテレビのみのもんたがクオカードを配つてているのを見ていた。

俺がいる事は知つていたが、何も気づいてくれない。俺の誕生日を…。

「あのう、おばあちゃん」

「何！－（怒り気味）」

「いや、なんでも」

何でキレるんねん！－俺はジエスチャーで突つ込み家へ帰つた。

家へ帰ると、異様に飲み過ぎている父と酒にメチャクチャ弱い母がテーブルに伏せていて、その横に酒を飲ませたのか『ミミズだ

ぞ』』と言つてクネクネしてゐる弟。

ハムスターに足でも噛まれたのか片足を持つて跳ねている姉。満足感タップリの顔をしているハムスター。

何なんだ、この一家。

息子の誕生日に家をこんな状態にしているし、弟はもうミミズより蛇に見えるし、姉の左足の親指が妙に赤いし、すこく訳わかんない状況だ。

た。

「お化け怖いよー

訳分からん展開で急に泣き出した弟を見て母が大爆笑して父が寝言で『おらは空なんか飛べるんじょー』意味不明な日本語を吐き散らかして、姉は人形の胸ぐら掴んで人形にケン力を売つていた。俺はその時、分かつてしまつた。

酔っている。

飲んでない状態で人形にケンカを売つていたら、俺はタクシーを呼んで精神科に連れていくであろう。

「お、ウヌーリー」

「だから俺はちがえつて

「ゲロッパ！！」

母は両手を上げて叫び、満足気な顔をした。俺ははあ？と言いたくてたまなかつた。

「おい、ウォーリー。実はよ、あんた家の子じやないよ

え――――! ? 何言つの! ? いきなり。

姉が『メロンパンチ』と弟を殴っているのを横目で見て俺のこと

をウォーリーと呼ぶ母の話を聞いてみることにした。

「実はよ、あんたはあたち（？）の腹の中から出てきたんだよ！…」

「はい、家の子決定、なぜか母は涙ぐむ。

「あんたなんか産まなきやよかつたよ」

もし母親が酔っ払っても母親からその言葉を聞くとどれだけショックか分かるはずだ。

弟から『でてけでてけゲフフ』と笑ってる中、俺は家から出でつた。

その時の持ち物は、電池一個のケータイ。

金（2000円ぐらい）、ばあちゃんの家でもらった和菓子一個。

まああとはチャリもあるし、好きなところへ行くか。

ピーと、聞きなれた音。

もしや、ポケットからケータイを取り出すと、充電してくださいと
いう表示が…。

俺は崩れた。

もう連絡手段は無しかと、まあいつもケータイは携帯していないしつもの事だ。でも充電器持つてくればよかつた。

俺はチャリを発進させ、近くの公園へと向かつた。

その公園、遊園地とか調子乗つてるけど、ブランコ（三回もある）とすべり台とグルグル回るやつとジャングルジムしかない遊園地がどこにある？という話になる。

俺はとりあえずグルグル回るやつの後ろに隠れた。思いつきりバ
レるけどね。

しばらぐしてると、日も暮れていき、カラスも鳴きまくつて
ここに寝るかと思つて寝転がつた。

頭に当たる感触は気持ち悪いが、冷たくて気持ちいい。夏にはち
ょうどいいと俺は思つ。

すると、誰かの叫び声がかすかに聞こえてくる。なんなんだ？

「…………！」

俺の名前だ。あれはまさか…。

「 ～～～！ ！」

父だ。飲酒運転じゃないのか？

弟がまだ酔つてゐるのか『へべロン、へべロン』と言しながら窓に体を出してゐる。来るなよ。弟。

俺は父に名前を呼ばれるのも弟に『へべロンへべロン』で言われても困るから俺はいそいと公園を出で、『俺はいじだーー』と叫んだ。

最終的に家族全員で土下座をし、翌日、2万を封筒に入れて置いてあつた。

後でわかつた事だが、弟はチューハイを5缶ぐらい飲んだらしい。なぜ家族全員飲んでたのかわからぬまま今に至るのだった。

いよいよ2年から2年も終わりへと近づいてきた。

皆さん、俺の人生どうでしたか？

それでは中学3年生からの俺について語りひとつと思います。

今の俺はバンドを組んでます。

そのボーカルは右のもみあげがあります。

何の目的でもみあげを剃ったのか未だに不明です。

しかもバンドの第一曲目はおもいっきりパクってます。ショボいで

す。

あと悪い方向の奴とつるんで、スーパーと100均のブラックリストに載つてしましました。

あとケータイいじつてたら、その前に担任がいて、ケータイを没収されました。高校行けるんでしょうか？

夏休みはなんか知らんけど、セバスのランニングにサイクリングで付き合つてます。

結構いい汗かいてます。痩せますね。うん。

あと

「大好き五つ子」

の五人が小学生からいきなり高校生になつたのにすごい反対してしまい、セバスと討論します。

「んだよ、なんで高校生なんだよ」

「落ち着けよ」

「中学生でもそれなりのドリマは出まつてーの。そりだろセバス」
「だまれ、フウー」
のような討論をしまくつてます。

それに

「大好き五つ子」

のみほとのりかの変化がだいぶすれ違つちやつてます。

なんか知らんけどマジだつたみほがあんな顔になるとは思わなかつたし、のりかはあんなに綺麗になるとは思わないのもセバスと討論します。

「のりかの変化の経緯知りたいよな。なあセバス」

「だまれ、フウー」

のような討論をしまくつてます。

そんな俺ももう受験生。勉強シーズンへとなつてます。
だけどもバンドもやりたい。

ドラムをダンダンやりたいし、とすゞい悩みまくつてます。
三年になつてからだんだんチャリが壊れかけてます。

まず最初のチャリ破壊事件。

ある朝、俺はいつものように自転車のカギを持って自転車の方へと向かうと、タイヤがやけに空気が無いので入れました。そのときの効果音。

「シュー（タイヤに空気を入れる音）ピピギー（タイヤから空気が漏れる音）シュー、ピヤーン、シュー、ピヤーン…」

俺は目に涙をため、必死で歩き、必死で遅刻してきました。

その日は生徒朝会でおもいつきり注目されて恥ずかしい思い出つす。

チャリ破壊事件簿その2。

ある帰り道、バンドメンバーと帰つていると、いきなりギターが『サンケツしよーぜ』と言つて、俺に無理矢理乗らされました。まず俺が立ちひざをして、サドルに一人乗つて、荷台に一人が乗りました。

すると、おもいつきり左によつて、ぐにゅっとこけました。

俺がタイヤを見ると、くの字型に曲がついていて、走れない状況になりました。俺はてめーらのせいだとキレ、帰りました。

翌日、そのまんまのチャリが家の前にありました。
ちなみに修理代は俺がすべて払いました。

チャリ破壊事件簿その3。

段差を乗り越えたらブシューって……。

以上。これで俺の自伝は終了です。次はギター小説を書こうと思
います。ありがとうございました。

中学生がかり（後書き）

ほととぎすがとうじゆこました。 三（一）三

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0863a/>

2年から2年

2010年10月20日16時00分発行